

普段使いのローカル線 「沿線の日常」が注目される 観光の時代

会場 / 大分銀行 宗麟館2F
(JR大分駅・上野の森口・南に徒歩3分)

11/19[±]

課 題
提 起

JR豊肥本線は、大分市と熊本市を結ぶ都市間交通の役割を持つとともに、熊本・阿蘇の大自然観光。大分県内においては歴史文化と温泉の街、竹田市と大分市の間を結ぶローカル鉄道として機能する。この間、豊後大野市には、JR駅が6駅存在し、九州横断特急の停車駅も2駅存在(三重町および緒方)する。にもかかわらず、この地域の観光アイデンティティが希薄なために、九州を横断するニッポンでは稀なスケール感を有する「この沿線の観光価値」を分断させる原因となっている。

4月に発生した地震により、JR豊肥本線は熊本の一部地域が現在も不通となっている。その復旧・復興に至る過程で、眠り続けたままの「JR豊肥本線・大分県側の観光価値」について再検証し、普段使いのローカル線「沿線の日常」が注目される観光の時代を考え、ひいては九州全体をゆったり移動する観光スタイルが、「大きな観光潮流となる」…その可能性について考える。

11/19[±] シンポジウム 大分銀行 宗麟館2F

12:30 開会挨拶

〈大学COC授業が担うもの〉 吉村 充功 日本文理大学学長室長/人間力育成センター長
〈シンポジウムの狙い/大会実行委員長〉
大黒伊勢夫 ものがたり観光行動学会 会長代行/西日本鉄道(株)取締役/亀の井バス(株)監査役

12:50 プレ・シンポジウムとしての研究発表

〈ものがたり観光行動学会員〉 〈日本文理大学教員・学生研究ミッション〉

14:00 シンポジウム

① 基調講演(50分) 豊肥本線・その現状と課題そして未来
青柳 俊彦 JR九州 代表取締役社長

休憩10分

② セッション(110分) 普段使いのローカル線「沿線の日常」が注目される観光の時代

パネリスト
青柳 俊彦 JR九州 代表取締役社長
佐藤友美子 追手門学院大学 教授/JR西日本 取締役
桑野 和泉 由布院温泉観光協会 会長/JR九州 取締役
橋本 祐輔 本学会 会員・豊後大野市長
岡本天津男 大分県 観光・地域局 局長
コーディネーター 高田 公理 ものがたり観光行動学会副会長

16:50 主催者から閉会の辞

加藤 晃規 ものがたり観光行動学会 副会長

17:00 終了

17:15~18:50 アフターパーティー ※会場同じ

シンポジウム参加募集要項

参加ご希望の方は、下記要領でお申し込みください。

一般参加ご希望の方は、日本文理大学COC事務局にて申込を受け付けます。

下記のいずれかの方法でお申し込みください【可能な限りネット申込でお願いします】

- ネット申込(専用サイト): <http://coc-nbu.jp/monogatari-kanko>
- 電話受付: 097-524-2663 (日本文理大学 COC事務局、平日9:00~17:00)

【お願い・ご確認】

10月3日(月)~31日(月) この間のみ参加申し込み・受付となります。
申込結果は11月7日(月)に返信するメール(電話申し込みの方はその他方法)による通知をもって発表に替えます。

参加定員(120名)を越えた場合は抽選になります。
※アフターパーティーは先着40名(6千円/人・会場受付時徴収)で締め切ります。
申込方法は参加通知の際にお知らせします。受領後、お早めにお申し込みください。

11/20^㊿ 総会・エクスカーション 学会および大学関係者限定

9:00 / ものがたり観光行動学会 総会【会場:里の旅リゾート・ロジきよかわ】

10:15 / エクスカーション 観光タクシー『里の旅タクシー』の試み 出発地点→里の旅リゾート・ロジきよかわ(豊後大野市清川町)

14:00 / JR豊肥本線・緒方駅前(解散/全日程終了) 【参考】緒方駅発の列車時刻 14:11・大分駅到着時刻 15:05

※シンポジウム及び総会・エクスカーションに参加希望の学会会員は会員専用フォームからお申し込みください。